

2014年11月1日から2015年3月31日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。



**認定NPO法人発足に伴う変更事項**  
一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

- 塩川 直宏 様
- 伊地知 修 様
- 池田 尚弘 様
- 赤川 慎子 様
- 井上 博貴 様
- 公益財団法人煎茶道  
方円流南九州支部 様
- 永留 祐佳 様
- 神本 三千男 様
- 中野 緩奈 様
- 福川 勉功 様
- 酒匂 睦子 様
- 福川 みずほ 様
- 株式会社丸徳水産 様
- 高田 いぶき 様
- 森 一正 様
- 佐藤 秀夫 様
- 鹿児島南ロータリークラブ様
- 岩松 洋一 様
- 尾之上 一葉 様
- 国分酒造協業組合 様
- 宮原 明夫 様
- 浄土真宗本願寺派西本願寺  
鹿児島教区仏教婦人会連盟 様
- 河野 嘉文 様
- 河野 保夫 様

■一般寄付  
 本法人の活動意義をご理解頂き、額の多寡は関係なくご寄附を賜りますようお願い致します。  
 現金收受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。

■個人賛助会員：年会費・・・・・・12,000円

■法人賛助会員：年会費・・・・・・120,000円

■募金箱  
 募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。

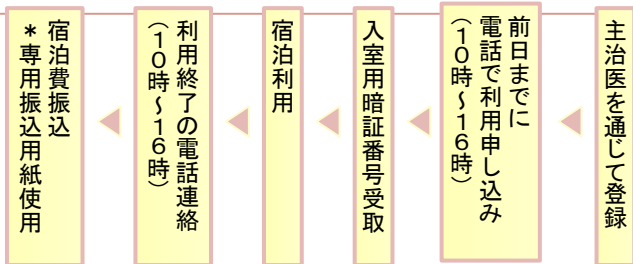
本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。

入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

- 鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。
- 基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。
- 1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。
- セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。
- ボランティアの方達によって維持管理して頂いております。ご協力を。

ご利用の流れ



\* (注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内  
 電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

**活動** 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

**お約束** 皆様からお預かりした個人情報は  
 ・会員のご案内の発送以外の目的で使用する事はありません。  
 ・ご本人の同意なく第三者に開示・提供する事はありません。

会員の方々と事務局を結ぶ……

こねっと通信

2013.SPRING VOL.13

■ファミリーハウス

■健康相談会・巡回診療

■子ども救急箱

■ふれあいコンサート

■その他

Save the Children  
 私達は離島・へき地の  
 難病児を支援します



すべての子どもに適切な小児医療と  
 快適な闘病生活を



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)  
 子ども医療ネットワーク

認定NPO法人への寄附は、税額控除の対象となります。



# こねっと通信

会員の方々と事務局を結ぶコーナー

子ども医療ネットワーク

## 理事長通信

「十年一昔」、「十年一日のごとく」、英語でもdecade(10年間)と言うように、洋の東西を問わず10年というの区切りなのだと思います。特定非営利活動法人子ども医療ネットワークも5月で設立10年になります。たくさんの方々のご支援をいただきながら継続することができました。厚く御礼申し上げます。

自分たちができることを無理なく行う方針で、継続性を重視してきました。あるお母さんからいただいた言葉「私たちのことを気持ちよく応援してくれるだけでうれしい」がその根拠になっています。

たくさんの方々からいただく寄付だけで運営しております。5月中旬に控えた認定NPO法人としての更新審査の準備も、柳元尚喜さんはじめ税務関係に詳しい方々がボランティアで膨大な事務作業を担当してくれております。全員が片手間のボランティアで、会計規模も小さい認定NPO法人ですが、「すべての子どもの適切な小児医療と快適な闘病生活を」というミッションを掲げて今後も進んでいきたいと思っております。引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 子ども健康相談会 ● 龍郷町報告書から

平成27年1月24日(土) 場所: どうくさや館(龍郷町保健福祉センター)

どんよりとした天気が多い中、久しぶりの晴天での講演会となりました。龍郷町は同じ奄美大島内でも行政が子育て支援に力を入れていることもあり、小児人口が比較的保たれている地域です。今回、大人24名、子ども3名の参加がありました。

講演会は2つのテーマを取りあげ、ともに鹿児島県立大島病院から講師をお招きしました。一つは、「子どもの食と栄養と親の役割」と題し栄養士の永登康博先生に、二つ目は「思春期のこころとからだ」というタイトルで、助産師の鶴田郁子先生にお願いしました。

永登先生は、5つの「食」の問題点を以下のように取りあげ、

- ① 孤食(家族が不在の食卓で一人で食べる)
- ② 個食(家族それぞれが自分の好きなものを食べる)
- ③ 固食(自分の好きな決まったものしか食べない)
- ④ 小(少)食(いつも食欲がなく、食べる量が少ない)
- ⑤ 粉食(パンや麺類など粉を使った主食ばかりを好んで食べる)

家族そろっての食事で、嫌いな食べ物に触れる機会を作り、食事のマナーを教え、思いやりの気持ち育て、えびせんやポテトチップスは分けて食べてカロリー過多を回避する、等の重要性を強調されました。母親が子ども達に「何が食べたい」と聞くことはせず、食べさせるべき食物を提供する習慣をつけることがよさそうです。



鶴田先生は、二次性徴発来時の対応方法を具体的に示されました。女子には初潮が始まる前に月経のしくみ、対処法を覚えておくことが重要で、学校で起こることもあるので、年齢が来たらバッグの中にナプキン等を入れておくよう配慮すべきであるということでした。一方、男子の場合には、声変わりや嫌な思いをすることもあるため、「もう少し待てば低くて太い素敵な声になるよ」等の前向きな声かけが重要だそうです。

思春期はわけもなくイライラしたり、一人のように感じたり、と不安定になります。これらは自立への始まりの兆候なので、良い子になるよりなり自分へ、やらされるのではなく自分のためにやる、という自覚を持つように指導したいものです。「コミュニケーションの方法として、生まれた時の親としての感動を伝えることもいいそうです。

今回の講演で、改めて食生活の大切さ、日々の創意工夫の必要性を感じ、また思春期の大変さ、自立に向けた貴重な時間を感じました。そして私自身親に大切にしてもらい、それなのに自分の理不尽な感情をぶつけたら甘えたり、反省と親のありがたみを感じました。

講演に来て頂いた方々、事前準備から協力頂いた龍郷町保健師里園さん、講師を快く引き受けて下さった講師の先生、応援に来て下さった河野先生、無事に開催でき、感謝してまいります。(県立大島病院 小児科 今村真理)

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。

《宛先》  
〒890-8520  
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター 小児科内 「こねっと通信」係  
E-mail  
kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人) 子ども医療ネットワーク

ホームページは随時更新中です  
<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

## 子ども救急箱

### 《イオン飲料》

NPO法人子ども医療ネットワーク会員  
根路 結 安仁  
(鹿児島大学病院小児科)  
2015年3月10日  
南日本新聞掲載

イオン(スポーツ)飲料は電解質や水分、栄養補給を目的に広く飲まれています。他の清涼飲料水に比べても糖分濃度が高く甘みが強いので、子どもたちが飲む習慣が付きやすいといわれています。イオン飲料は酸性のため、歯のエナメル質を溶かす作用があり、虫歯になりやすくなります。また、糖分の取りすぎによって肥満の原因にもなります。たくさん飲んで血糖が高くなると喉が渇き、さらに多く飲んで、糖尿状態でも報告されています。



※子ども救急箱の記事は2006年4月から隔週に掲載されています

寛が、米だけ食べることで発症することを証明したことは有名です。子どもがイオン飲料を飲み始めるきっかけは、風邪や嘔吐(おうと)下痢などの病気のときに、医療者が「薄めて」飲ませるように」と勧めたことが多いようです。病気が治ってもイオン飲料を好んで飲み、水や食事をあまり取らなくなることがあります。

イオン飲料は健康によいと思われているため、子どもが好んで飲むことに抵抗を持つ親は少ないと思います。しかし、これは誤解です。イオン飲料は病気が改善すれば必要ありません。

イオン飲料の飲み過ぎは、虫歯、肥満、ビタミンB1不足による脳障害の原因になりえるので、病気が治ったらイオン飲料は中止するか、少なくとも習慣的に飲むことはやめましょう。

「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。上記住所にお送り頂くか、E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp まで

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内 「こねっと通信」係